

Public Psychology Lab., University of Tsukuba

今日、ヘルメット被りました。 ~筑波大生、自転車用ヘルメット着用推進編~

班長：宗岡禾子 副班長：藤井優衣・平岡大輝 DB：植村菖太郎
書記：矢場理人・加賀悠生 渉外：南慶汰 文書管理：吉田歩加
担当教員：谷口綾子 TA：林凜太郎 協力：茨城県警察

1

1. 背景と目的

2

1. 背景 3 自転車用ヘルメット着用の努力義務

【道路交通法 第63条の11】

自転車の運転者は**乗車用ヘルメットをかぶるように努めなければならない**

※令和5年4月1日施行の改正により
すべての年齢層の自転車利用者に対して乗車用ヘルメット着用の努力義務が課された

努力義務：そのことを行うように努めなければならないという規定。罰則はない。

提供：茨城県警察

3

1. 背景 4 筑波大学周辺の事故の多さ

茨城大生の自転車事故発生状況
茨城大半径3km 5年間で **21件**

筑波大生の自転車事故発生状況
筑波大半径3km 5年間で **66件**

茨城大(水戸キャンパス)4,931人 筑波大学(つくばキャンパス)15,984人

単一キャンパスに多くの学生が集まり事故が多く発生

提供：茨城県警察

4

1. 背景 5 大学生のヘルメット着用率の低さ

事故時ヘルメット着用者は **23.8% (R6)**

ヘルメット着用者の中で **大学生等は5.3% (R6)**

年齢層	ヘルメット着用率
大学生等	5.3%
高校生	11.0%
高齢者	19.3%
小学生	23.8%
中学生	46.9%

提供：茨城県警察

5

1. 背景 6 ヘルメットを着用した時の事故被害

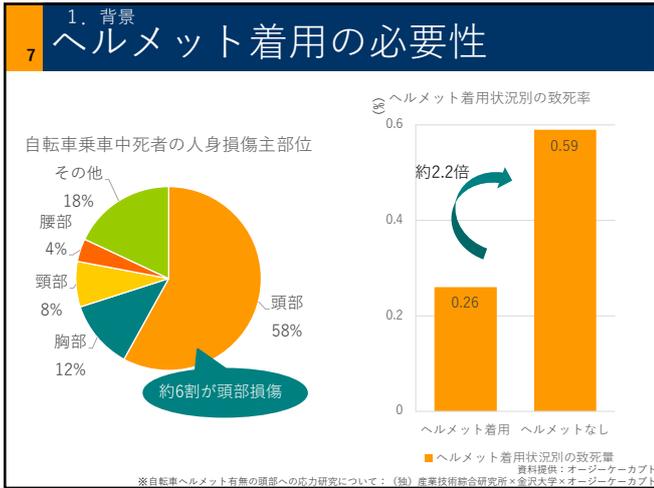
事故時、ヘルメット着用により **損傷が軽減 (76.3%)**

状況	人数	割合
損傷同じ	45人	24%
ヘルメット着用により損傷が軽減	145人	76.3%

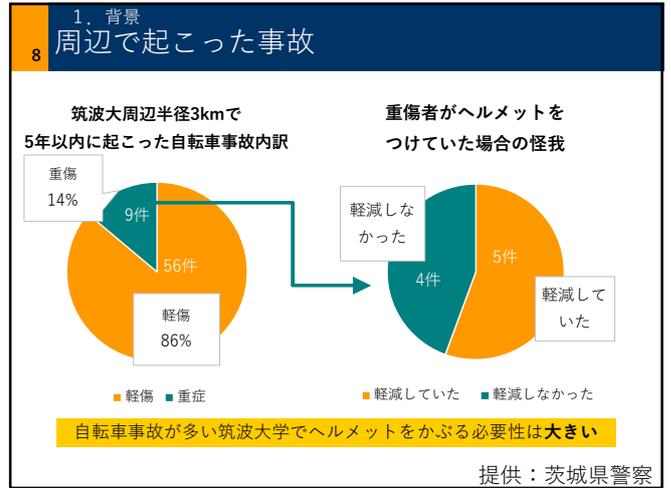
交通安全の為に
筑波大生のヘルメット着用意識を上げる必要がある

提供：茨城県警察

6



7



8

1. 背景

ヘルメットに関する情報の少なさ

つくば市ではヘルメットを購入した際に2000円の助成金が支給される

しかし、令和6年度の申請者数は370件でつくば市の人口(26.3万人)から考えると件数が少ない

支援の体制は整っている
→実際に行動に移している人は少ない

9

1. 背景

10 先行研究

著者名, 発行年, タイトル, ジャーナル, 掲載ページ	研究目的	研究結果
山元敏久, 2024, 自転車用ヘルメットに対する消費者意識, 比治山大学紀要 第30号, p41-48	消費者のヘルメットに対する意識を調べた。	事故や補助金によってヘルメットの関心が高まる。
谷口嘉男, 谷口俊治, 志堂寺和則, 2020, 小・中学生の自転車運転行動とヘルメット着用の背景要因, 交通心理学研究 第36号, p31-41	小中学生を中心に安全教育の効果的な方法を考えた。	学年が上がるほどヘルメットの着用率が下がる。
内藤英二, 2014, 【大学生によるまちづくり提案】宇都宮市内を走る自転車利用者のヘルメット装着率を高くすることで市民の安全を守るためにはどうしたらいいか, 宇都宮県立大学 都市経済研究年報 第14号, p166-177	ヘルメットの着用率を高めるための方法を大学生の観点から考えた。	ヘルメット着用率を高めるためのアプローチとして見た目や機能を変えるという提案がされた。
佐々木湖恵, 戸倉直, 萩原一郎, 2024, お洒落なヘルメットの開発, 計算工学講演会論文集 Vol 29	快適でおしゃれな折り紙構造のヘルメットの開発	快適さとデザイン性は両立できたがヘルメットの耐久基準はまだ満たしていない

ヘルメットの着用意識を上げるには
・事故・補助金の情報を提供すること
・デザイン性や快適性を向上させることが重要

10

1. 背景

11 先行研究

Jean-Baptiste Richard 2013, Evolution of bicycle helmet use and its determinants in France:2000-2010, Accident Analysis & Prevention Volume 60 (113-120)

・フランスにおける自転車ヘルメット着用率の2000年~2010年での変化
・着用が義務化されおらず、啓発キャンペーンが行われた状況下での実態調査

Table 1. Ordering of perceived risk for 39 activities and technologies (22). The ordering is based on the geometric mean risk ratings within each group. Rank 1 represents the lowest risk activity or technology.

Activity or technology	Legion of Women	College students	Active club members	Expens
Nuclear power	1	1	8	20
Motor vehicles	2	5	3	11
Hanging	3	2	1	4
Swimming	4	4	4	4
Motorcycle	5	9	2	5
Alcoholic beverages	6	15	11	12
General (general)	7	15	11	12
Electric work	8	8	7	17
Fireworks	9	4	15	8
Scuba	10	11	9	5
Fire fighting	11	10	4	18
Scuba diving	12	14	10	13
Scuba diving	13	14	10	13
Spray can	14	13	23	26
Mountain climbing	15	22	12	29
Bicycles	16	24	14	16
Commercial aviation	17	16	18	16
Electric power (non-nuclear)	18	19	19	9
Automobile	19	30	17	10
Construction	20	9	22	11
Shooting	21	20	22	11
Scuba	22	17	24	30
High school and college football	23	17	24	30
Ballgame football	24	23	29	19
Food preservation	25	20	28	21
Food cooking	26	20	30	21
Prescription antibiotics	27	28	29	24
Home appliances	28	21	29	24
Vaccinations	29	29	29	25

フランスでは法律で縛らずに意識づけを行うことで着用率が10年間で約3倍に

大学生は他の層と比べて自転車に恐怖心を抱いていない

自転車が危険であること、ヘルメット着用でリスクが軽減できることを伝える事が重要

11

1. 背景

12 先行研究

北田淳子, 広報パンフレットの効果測定に関する研究ーパンフレットの構成要素が態度変容に及ぼす影響, 広告科学, 47巻, p17-32, 2006.

・原子力発電の安全性を訴求するパンフレットの効果を検証
・印象に残ったコンテンツの把握・態度変容効果の検証

Table 4. コンテンツの評価の総括表

サブテーマ	コンテンツ	ビジュアル要素	認知性	認知効果が相対的に高い(低い)	態度変容効果(認知性)
印象に残ったコンテンツ	表紙の文字	なし	○	○	○
	火力の強さ	イラスト	○	○	○
印象に残ったコンテンツ	原子力発電の仕組み	イラスト	○	○	○
	原子力発電の危険性	イラスト	○	○	○
印象に残ったコンテンツ	自然放射線と比較(1000分の1)	イラスト	○	○	○
	原子力発電の危険性	イラスト	○	○	○
印象に残ったコンテンツ	原子力発電の危険性	イラスト	○	○	○
	原子力発電の危険性	イラスト	○	○	○

情報提供前後で、原子力に対して好意的・肯定的に評価が動いた

受け手に関わりのある題材が有効

受け手にとって題材が身近で意外性のある内容がパンフレットにおいて有用

12

13 1. 研究の目的

1. 自転車用ヘルメット着用の**努力義務**
2. 筑波大周辺での**自転車事故**件数の多さ
3. ヘルメット着用による**事故被害の軽減**力
4. ヘルメットに関する**情報提供の少なさ**

↳ 筑波大生のヘルメット着用率向上が**急務**

<目的>

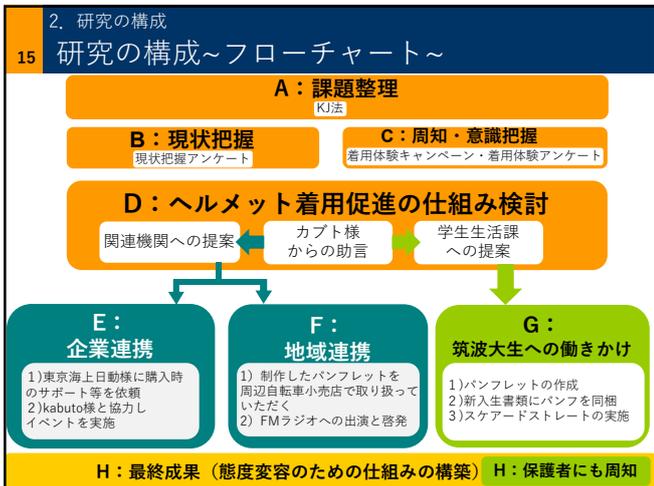
筑波大生のヘルメット着用率の向上

13

2. 研究の構成

14

14

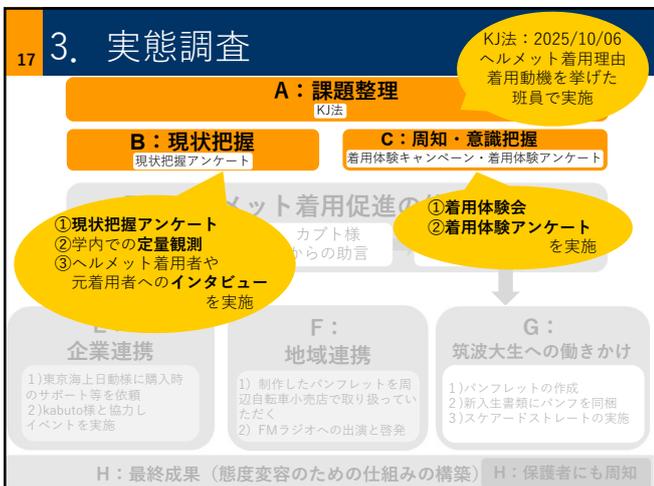


15

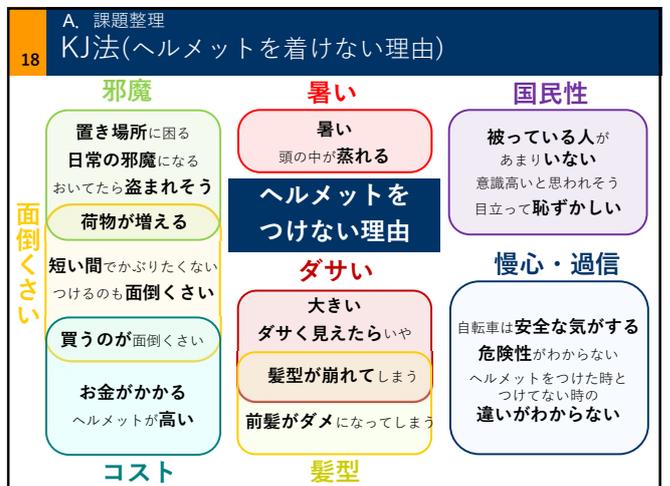
3. 実態調査

16

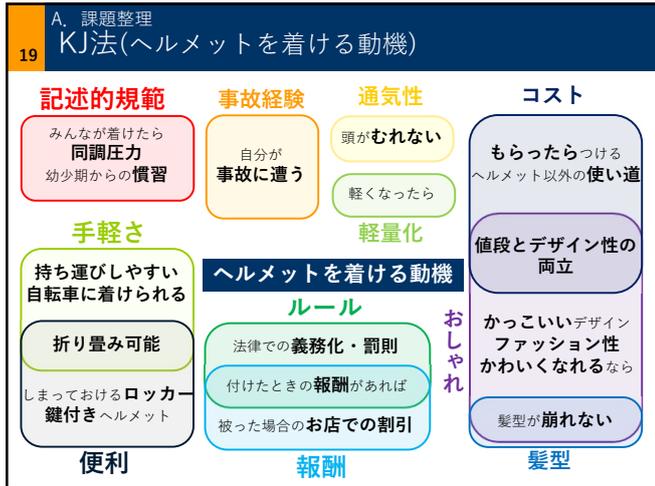
16



17



18



19

B. 現状把握
20 ①現状把握アンケート

筑波大生のヘルメットへの意識の調査のためアンケート調査を実施(現状把握アンケート)

現状把握アンケート概要

n数	筑波大学に在学している学生 245名(男性:133人、女性:112人)
調査時期	2025年10月17日~24日
方法	Webアンケート調査
調査項目	個人属性(所属/学年/性別) ヘルメット着用経験(着用有無/着用開始時期/着用動機/改善点) 今後のヘルメット着用意向(今後の着用意欲/新型ヘルメットの認知・評価)

ヘルメット着用に対する意識調査

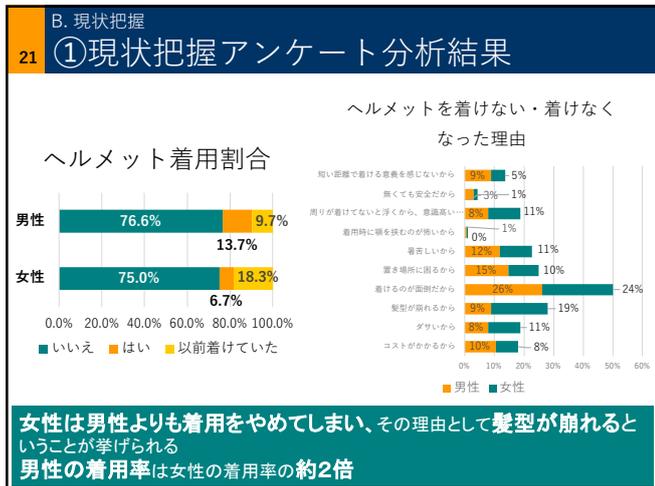
筑波大学理工学群社会学類都市計画専攻の都市計画演習3班では筑波大学の全面協力のもと「大学生の自転車用ヘルメット着用促進」をテーマに調査を行っています。そこで、筑波大生のヘルメット着用の実態を把握するため、アンケート調査を行うことになりました。

この調査は匿名回答になっております。所要時間は約2分です。ぜひご協力をお願いいたします。

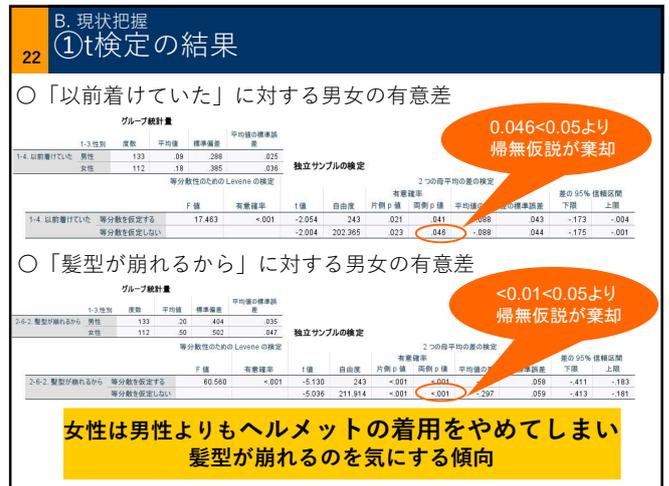
お問い合わせ先
理工学群社会学類都市計画専攻
都市計画演習3班 大平拓海
(s241237@u.tsukuba.ac.jp)

*必須の質問です

20



21



22

B. 現状把握
23 ②定量観測

調査内容

方法	カスミ筑波大学店前で自転車利用者の総数とそのうちのヘルメット着用者数を測定
調査時期	12/9-12/11まで 11:25-12:10
調査項目	筑波大生の自転車利用者のヘルメット着用率

調査結果

	自転車通行者	ヘルメット着用者	ヘルメット着用率
12/9	661	20	3.03%
12/10	568	11	1.94%
12/11	668	10	1.50%
合計	1897	41	2.16%

茨城県平均の21.7%を大きく下回る

今後の学内でのヘルメット着用促進活動の効果を測るための指標とすることができるのではないか。

23

B. 現状把握
24 ③甲斐田先生へのインタビュー

現状調査のため、ヘルメットを着用している甲斐田先生にヒアリング

・先生は2005年-2006年 スウェーデンに滞在
・子供でヘルメットを着用していない人はほぼおらず、大人もそのほとんどがヘルメットを着用
→他者の目を気にせず、ヘルメット着用を合理的に考えている。
・欧州ではヘルメット着用が定着。自転車専用道路が整備されている背景もある

甲斐田先生愛用中のヘルメット

<結論>
日本と海外には意識の差がある
日本人: 記述的規範の意識が強い
海外: リスク軽減を優先

留学生などへの意識調査を検討

24

B.現状把握
25 ③留学生へのインタビュー

日本に来てからヘルメットの着用をやめたドイツ出身の留学生にインタビュー (Jさん)



Q1. なぜ日本に来てからヘルメットの着用をやめたのか。
A. 日本はドイツに比べ安全に感じ、自転車をレンタルした際にヘルメットの紹介をされなかった。周りの人がつけていないのも要因。

Q2. ドイツでは、自転車を運転する際に何が危険だと感じるか。
A. ロードバイク等に乗っている人が多く、自転車も車の一種として見られる。6歳の頃に実際に自転車事故に遭い、複数回自転車事故を目撃した。

Q3. ドイツでは自転車用ヘルメットに関する法整備はされているか。
A. 法律による規制はないが、半数近くの人が自主的に着用している。

Q4. どんなきっかけで日本でも自転車用ヘルメットを着けようと思うか。
A. 周りの人がつけていれば自分も着ける。値段も安くなれば購入したい。

25

B.現状把握
26 ③留学生へのインタビュー

<結論>

①ドイツと比べて日本は安全に感じる

→自転車事故の危険性を強調することが重要。筑波大生に対して**事故被害及びその悲惨さ**を伝えることが必要になる。

②コスト面に課題が残る

→関係する企業に**協賛をお願い**しコスト面の解決を試みる。

26

C. 周知・意識把握
27 1. ヘルメット着用体験会

・大学生のヘルメットのニーズの把握
・ファッションヘルメットの認知度向上のために ヘルメットの着用体験を実施



方法	パンフレット配布・ヘルメット着用体験
調査時期	2025年10月21日～24日
場所	3A棟前・平砂カスミ前
調査の流れ	事故やヘルメットの情報を記載したパンフレットを配布 ↓ 着用体験の依頼 ↓ 着用体験アンケートへの回答依頼



27

C. 周知・意識把握
28 1. ヘルメット着用体験会

①カスケッタタイプ ②ベースボールキャップタイプ




- 丸みのあるカスケッタ型
- 短いつばあり
- 灰色

- ベースボールキャップ型
- つばあり
- ロゴ付き

28

C. 周知・意識把握
29 1. ヘルメット着用体験会

③カジュアルキャップタイプ ④アウトドアタイプ ⑤ノーマルタイプ





- 黒のベースボール型
- 頭のサイズに合わせて調整可能
- 柄なし

- つばが広い
- 深緑色
- 山登りで使うような形

- 従来のヘルメットの形
- 頭のサイズに合わせて調整可能

29

C. 周知・意識把握
30 1. ヘルメット着用体験会

配布したパンフレットのデザイン



ヘルメットなしの自転車は危険!?

昨年(2024年)の茨城県内の自転車に関連した交通事故

発生件数は 812件 2.2件/日
負傷者数は 784人
死者数は 13人 ひと月に1人以上

こんな事故がありました
ヘルメットなし、高校生、県内の事例

地面に顔を打って割れたヘルメット

ヘルメットをかぶっていないければ割れたのは...

約30m飛ばされて重傷に...

提供 茨城県警察本部 交通総務課

30

C. 周知・意識把握
31 1. ヘルメット着用体験会

茨城県警協力の下実施



茨城新聞に載りました!



31

C. 周知・意識把握
32 2. ヘルメット着用体験のアンケート

筑波大生のヘルメット着用後の態度変容を把握するためアンケート調査を実施（着用体験アンケート）

着用体験アンケート概要

n数	筑波大学に在学している学生 61名 (男性:42人、女性:18人、その他:1人)
調査時期	2025年10月21日~24日
方法	着用体験者へのWebアンケート調査
調査項目	個人属性(所属/学年/性別) ヘルメット着用経験(着用有無) ヘルメット着用体験感想(着用したヘルメットの評価/ヘルメット着用意向)

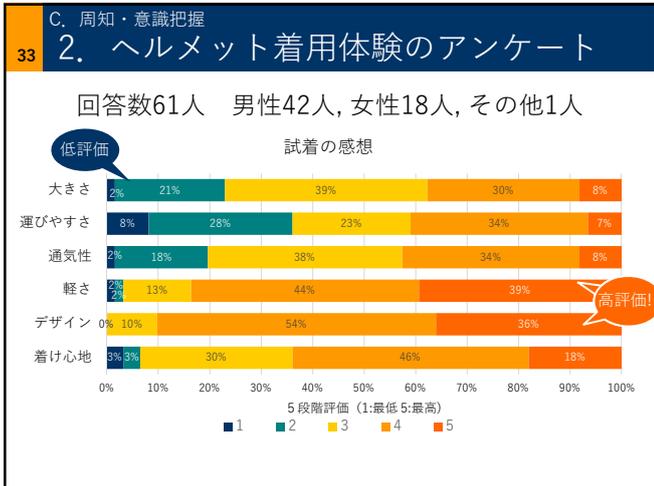
自転車用ヘルメット着用体験に関するアンケート

筑波大学理工学群社会工学棟都市計画専攻の都市計画演習3班では茨城県警の全面協力のもと「大学生の自転車用ヘルメット着用促進」をテーマに演習を行っています。今回の着用体験による、自転車用ヘルメットへの着用への態度変容についての調査を行うため、アンケートを実施することになりました。

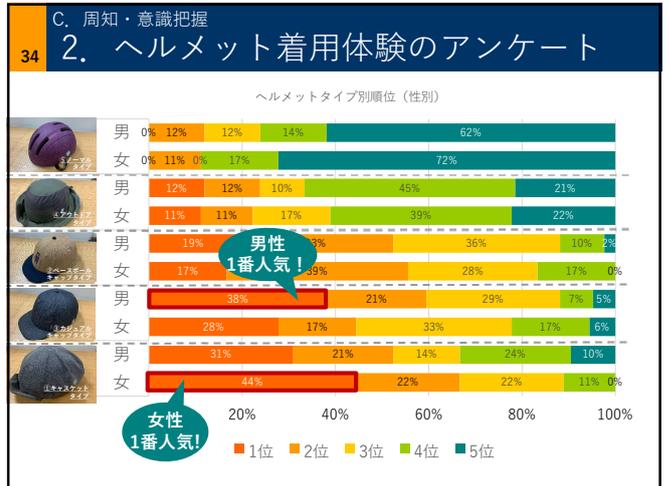
この調査は匿名回答になっております。所要時間は約1分です。ぜひご協力お願いします。

お問い合わせ先
理工学群社会工学棟 都市計画専攻
都市計画演習3班 中澤 祐樹

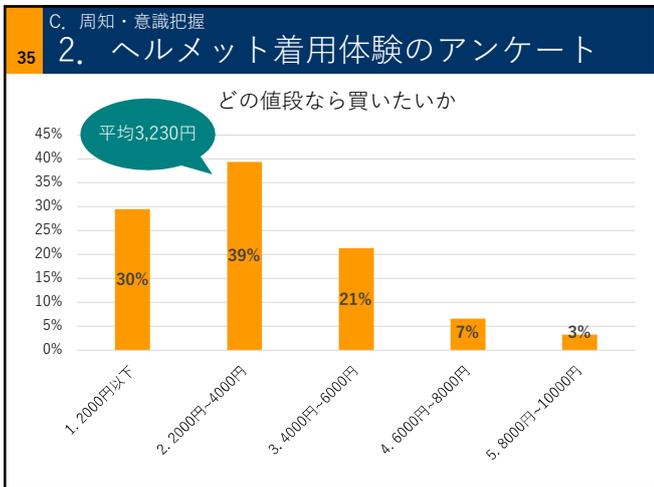
32



33



34



35

4. 関係機関へのヒアリング調査

36

37 4. 関係機関へのヒアリング調査①
株式会社オージーケーカブト様とのオンラインミーティング

ヘルメットを製造・販売している会社の方とのミーティング
株式会社オージーケーカブト
企画広報課長 柿山昌範様
日程：2025年12月3日 17:00~18:00
場所：Teams上で実施



株式会社オージーケーカブトについて
・自転車用ヘルメットの国内シェアNo.1
・SGマーク（安全基準）を取得しているヘルメットを多数製造

安全性・品質について
一定の基準を満たした製品
につけられるマーク

37

38 4. 関係機関へのヒアリング調査①
カブト様へのインタビュー結果

○ヘルメット着用率向上の現状と課題

努力義務への法律施行前後でヘルメット出荷数が約3倍に増加

↓ 一時的な品薄状態に

品薄時に規格を満たさない低品質なヘルメットが流通した

↓

・基準を満たす製品の重要性
・ヘルメットで命が守られた事故事例の発信

の2つを適切に発信し、着用率を向上させることが必要

38

39 4. 関係機関へのヒアリング調査①
カブト様へのインタビュー結果

○大学生・若年層への啓発活動とアプローチ

子供や高齢者を対象に啓発活動を行っている
↓ しかし…
大学生はルール化しないと着用しない傾向



ファッション性や利便性を重視してかぶらない（=面倒くさい）

アプローチの手法を層によって変更するべきなのではないか

- ・着用には消極的な層：事故画像や事故事例の提示
- ・着用には迷っている層：イベントや着用体験会の提供

スケアードストレートなど

39

40 4. 関係機関へのヒアリング調査①
カブト様へのインタビュー結果

○ヘルメット製品開発と普及促進のハードル

①安全基準(SGマークなど)を満たすためには一定のコストがかかる

安価な製品は安全性や快適性が犠牲に

②大学生向けの課題：ファッション性と通気性の両立
→メッシュ素材のカバーや冷却インナーパッドなどの工夫

③高齢者向けの課題：使いやすさの向上
→着脱しやすいパーツの導入

40

41 4. 関係機関へのヒアリング調査①
カブト様へのインタビュー結果

○インタビューを通して考えたこと

①ヘルメットの安全性や着用しなかった際の危険性をより周知させる

→実際の事故事例や事故画像を通したヘルメットの重要性の発信

②着用しない理由が異なる層に対して適切な着用促進のアプローチができるようにしたい

→表紙・内容のテーマが異なるパンフレット作成を検討

41

42 4. 関係機関へのヒアリング調査①
皆様に見て頂きたい動画

『1万円か…今はちょっと厳しいな…』

渡邊さんは、息子さんにヘルメット購入を頼まれた時、値段を理由にそのお断りを断ってしまい、その後息子さんは、車との衝突事故で帰らぬ人となってしまいました。頭を強く打ったことが原因だそうです。あのおときヘルメットを買ってれば……。今もその悔恨は消えません。その思いもあり、事故の翌年、渡邊さんが在住する愛媛県の全ての公立高校で義務化・無償配布されました。

『命より重い出費が、命を守るより大切なことがこの世にあるでしょうか？』

班員が言葉を失った強力なメッセージ 衝撃の動画はこちらから是非保護者の皆様とご覧下さい。




【フルバージョン】いのちを守りたい——自転車ヘルメットが当たり前の世の中へ—— 大阪府警視交本部公式チャンネルより

42

4. 関係機関へのヒアリング調査②
班員による着用体験

43

カスケッタイプ(灰) ベースボールキャップ カジュアルキャップタイプ

アウトドアタイプ ノーマルタイプ カスケッタイプ(黒)

マーマル ハンチング

43

4. 関係機関へのヒアリング調査②
班員による着用体験

44

実施時期：12月8日～12月14日
班員8名が1週間kabuto様のファッションヘルメットを着用し日記にまとめた。

12/9 (火)
僕を合わせた3人のうち、2人がヘルメットを被っていたので、恥ずかしくなく逆に誇らしかった。

12/12 (金)
友達がそのヘルメットいいね！買おうかなと言っていた。連鎖していてうれしい！

班員Y 班員A

班員皆の着用体験日記はこちらから！

→新入生のヘルメット着用啓発パンフレットに掲載予定。

44

4. 関係機関へのヒアリング調査③
筑波大周辺の自転車販売店との連携

45

筑波大周辺の自転車屋にヘルメット設置及びパンフレットの掲載を依頼

右の地図に掲載されている10店舗にパンフレットの掲載と設置の許可をいただいた。

自転車購入時に、ヘルメット購入を推薦して頂く
→地域との連携によりヘルメットを購入しやすい環境へ

45

4. 関係機関へのヒアリング調査④
東京海上日動火災保険株式会社とのオンラインミーティング

46

保険会社の方とのミーティング

東京海上日動火災保険株式会社
山村様
日程：2025年12月12日 16:30~17:30
場所：Teams上で実施

東京海上日動火災保険株式会社について
・筑波大生が加入している学生教育研究災害傷害保険の引受幹事保険会社
・事故対応などの損害サービスを行なっている

46

4. 関係機関へのヒアリング調査④
東京海上日動火災保険株式会社様とのオンラインミーティング

47

ミーティングを行った背景

平均3,230円

<ヘルメット購入に対する金銭的課題>
着用体験時に調査した学生のヘルメット購入希望価格と、大学生のヘルメット着用体験で人気だったヘルメットの価格では、5000円以上の乖離があった。

<女性1番人気> <男性1番人気>

カスケッタイプ
商品名:ラフィネ
メーカー:OGK KABUTO
価格:約16000円
(Amazon参考価格)

カジュアルキャップタイプ
商品名:リベロ
メーカー:OGK KABUTO
価格:約8000円
(Amazon参考価格)

47

4. 関係機関へのヒアリング調査④
東京海上日動火災保険株式会社様とのオンラインミーティング

48

<ヘルメット購入補助の限界>
つくば市にはヘルメット購入の補助金があるが、2つの課題点が存在。

①つくば市に住民票がないと使えない。

②上限が2,000円である。

→金銭的課題解決に向けて、筑波大生に対する保険を展開している東京海上日動様に施策検討を提案。

ヘルメット着用により事故被害が軽減されると、会社が支払う保険金が減る点に着目

48

4. 関係機関へのヒアリング調査④
49 **結論と展望**

<結論>
ヘルメット購入補助の資金提供

A. 広告に対しての資金提供は可能
例：啓発パンフレットに、筑波大で展開をしている保険を掲載。
広告費の対価として**4,000円程度の資金援助**

<男性1番人気>
カジュアルキャップタイプ
商品名:リベロ
メーカー:
OGK KABUTO
価格:約8000円
(Amazon参考価格)



自治体(つくば市)
2,000円

広告に対しての
4,000円

→学生負担2,000円で入手可能!?

→以上の施策を茨城県警協力の下、**筑波大学学生生活課**へ提案 (予定)

49

5. 周知と施策

50

50

5. 周知と施策
51 **取り組みの概要**

自転車用ヘルメットの着用率の向上のため、
4つの取り組みを実施予定

- ① **セーフティライフへの掲載**
新入生・保護者を対象に自転車用ヘルメットの重要性を周知。
- ② **FMラジオへの出演**
本プロジェクトを世間に周知。
- ③ **スケアードストレートの実施**
ヘルメットをつけようという感情の想起を目指す施策。
- ④ **最終パンフレットの作成と配布**
④-1 入学資料に同封し、**新入生と保護者**を対象に自転車用ヘルメットの重要性・有用性を周知。
④-2 周辺自転車店舗に設置していただき、**自転車購入者**に自転車用ヘルメットの重要性・有用性を周知。

51

5. 周知と施策①
52 **セーフティライフへの掲載**

入学式の資料に同梱するパンフレット
現状:自転車のヘルメットについて**言及一切なし!?**



52

5. 周知と施策②
53 **FMラジオへの出演**

日時：2025年12月18日
16:45~16:50
場所：
LuckyFM茨城放送本社



茨城県警の方とともに
本演習の内容に関して
**ヘルメット着用を含めた
事故防止策**をラジオ内で紹介

ラジオを媒体にヘルメット
着用の**重要性**を周知。

53

5. 周知と施策③
54 **スケアードストレートの実施**

スケアードストレートとは
実際に**スタントマン**が事故現場の再現をすることで恐怖を実感し、それにつながる危険行為を未然に防ぎ、交通ルールを遵守することの大切さを体感させる教育方法。

オージーケーカブト柿山様
→**中立層へのアプローチとして有効**と評価。

➡ **本演習を通して来年度実際に大学での実施が決定。大学で、ヘルメット着用の必要性を、身近に感じられるように。**

54

5. 周知と施策④
55 最終パンフレットの作成と配布

質問：どのパンフレットを読みたいですか？

A モノクロで事故の悲惨さを表現
B 数値を示し危険性を強調する
C 学生同士の会話で親近感
D ファッション誌風のデザイン
E つい読んでしまうチェックリスト

55

5. 周知と施策④
56 最終パンフレットの作成と配布

質問：どの内容がヘルメットを買う気になりますか？

A 親の後悔と悲しさの事例
B 友達が事故に遭った時の感情の事例
C 自分が事故に遭ったら未来が消える
D ヘルメットのコーディネートの実例写真
E おすすめヘルメットのフローチャート

56

5. 周知と施策④
57 最終パンフレットの作成と配布 **保護者にもアピール!!**

パンフレットを来年度の新入生配布資料に同梱することを筑波大学学生生活課へ提案
→内容次第だが、**来年度新入生に配布予定。**
周辺自転車店舗にも設置していただき、自転車購入時にヘルメットの購入を呼び掛けていただく。

先ほど行ったアンケートも参考に、**A4サイズ4ページ**の冊子を作成します。
内容は先ほどの大きなテーマに加え
・ヘルメット紹介
・筑波大学の危険場所マップ
・ヘルメットの有効性を示すデータ
・ヘルメット販売店マップ
など

57

6. 成果

58

6. 成果
59 自転車ヘルメット着用に向けた行動変容：事例1

T口家：息子(20代前半)は自転車で駅に通う。長髪をまとめるため普段からキャップ着用。息子は自転車用ヘルメットに興味なし。めんどくさがり、寝坊と忘れ物は日常茶飯事

母：あなたに**自転車用ヘルメット**を買おうと思う！

息子：はあ？(あきれた)めんどくさ。

息子：うん、まあ、スピード出てるし危ないのは自覚してる。あつたらかぶるかも

母：いやあの学類2年生の演習でいろいろ情報あって、もうこの動画見て、せっかっこまで解ってた**あなたを交通事故で失いたくない**。(涙)

息子：うんええ泣くとかきもちいや、ぼく**無くすし**

母：大丈夫。無くさないため**自転車にくくりつけられる鍵付きカラビナ**買おうし、**最悪、無くしたらまた買うし**。(無くすなよ?)

あつたらかぶる、本当か。。。しかし息子の命には代えられない。

じゃ、自転車用ヘルメット**買うからね!**

大阪府警察交通部
公式チャンネル
https://www.youtube.com/watch?v=_RZFaygA020

59

6. 成果
60 自転車ヘルメット着用に向けた行動変容：事例1

12月11日(木) この演習のおかげで**ヘルメット買いました!**

かぶるとはいったものの、ほんとに使う?

一応、自転車用ヘルメット**かぶってる**ようです

60

6. 成果
61 自転車ヘルメット着用に向けた行動変容：事例2

TAのH：基本的には自転車でもどこにでも移動(研究室からコンビニ)。交通ルールは守っているが、かなりスピードを出している。

教授：今年は自転車のヘルメット着用に関しての演習ね

H：(していない身としては)耳が痛い話だな

H：こんな話を聞いて今買わないで事故に遭うなんて恥ずかしいな。

H：了解です！ヘルメットって大事ですね(建前)

H：自分にかけられた学費とは比べ物にならないしな。

県警の方のお話：車と事故ってピラーに当たったらもうほほほ。。。

演習中に観た動画：たまたま着けなかった日に事故で。命の価値とお金の価値は釣り合わない。命だけじゃなくて夢も失う。

大阪府警察交通部 公式チャンネル https://www.youtube.com/watch?v=_RZFaygA020

自転車用ヘルメット 買っちゃお！(ポチッ)



61

6. 成果
62 自転車ヘルメット着用に向けた行動変容：事例3

Y田さん：演習開始と同タイミングで一人暮らしを開始。大学への通学で自転車に乗る機会が増えた。朝の通学時のベドストリアンが混んでいて怖く、自転車の危険性やヘルメットの有効性を知ったことで、着用しないと後悔しようと思った。

親に相談

高いし買ってくれるか不安…

親にヘルメットの重要性を説明

親：かぶるのであれば好きなヘルメットを買いなさい

親：値段は気にしないで良い

12月14日(日) 現在、どのヘルメットを買おうか考え中 近日購入予定

62

7. まとめと展望

63

63

7. まとめと展望
64 64 まとめ

演習の目的:筑波大生のヘルメット着用率の向上

心理的課題へアプローチ

- ①ヘルメット着用体験
- ②セーフティライフへの記載、着用体験パンフレットの普及
- ③スケアードストレートの実施
- ④FMラジオへの出演や周辺自転車屋への提案で地域連携

金銭的課題へアプローチ

ヘルメット購入の金銭的補助の提案

筑波大学における自転車用ヘルメット利用促進環境を整え、大学生のヘルメット着用率向上へ貢献

64

7. まとめと展望
65 65 展望

演習を通じて見えた課題

短期的な着用率向上の難しさや定量的評価の難しさ

定量観測で把握した筑波大生のヘルメット着用率は2.16%

新入生入学後に定量観測を再度実施 → 新入生に対する施策の効果を測定

本プロジェクト内の施策の効果測定を実施し、今後の啓発活動に活かす(啓発パンフレットなど)

長期的継続での、演習期間外での効果も期待



65

7. まとめと展望
66 66 結論

自転車に乗る時は、あなたの夢を守るヘルメットを被ろう!

今日、ヘルメット被りました。

～筑波大生ヘルメット着用推進編～



66

8. 参考文献

67

67

8. 参考文献

68

- [1] 山元敏久, 2024, 自転車用ヘルメットに対する消費者意識, 比治山大学紀要 第30号, p41-48
- [2] 谷口嘉男, 谷口俊治, 志堂寺和則, 2020, 小・中学生の自転車運転行動とヘルメット着用の背景要因, 交通心理学研究 第36号, p31-41
- [3] 内藤英二, 2014, 【大学生によるまちづくり提案】宇都宮市内を走る自転車利用者のヘルメット装着率を高くすることで市民の安全を守るためにはどうしたらいいか, 宇都宮共和国 都市経済研究年報 第14号, p166-177
- [4] 佐々木淑恵, 戸倉直, 萩原一郎, 2024, お洒落なヘルメットの開発, 計算工学講演会論文集 Vol 29

68

8. 参考文献

69

- [5] Jean-Baptiste Richard, Bertrand Thélot, François Beck, 2013, Evolution of bicycle helmet use and its determinants in France: 2000–2010, Accident Analysis & Prevention Vol 60, p113-120
- [6] 北田淳子, 2006, 広報パンフレットの効果測定に関する研究——パンフレットの構成要素が態度変容に及ぼす影響, 広告科学 第47号, p17-32
- [7] 吉田信彌, 2018, 知識と行動の間にある溝をみつめよう, 交通安全教育 第53号, p6-13
- [8] 鈴木裕介, 2020, 自転車運転時のヘルメット着用義務化による社会的費用の削減効果に関する一考察, 交通学研究 第64号, p115-122

69

8. 参考文献

70

- [9] Paul Slovic, 1987, Perception of Risk, Science Vol 236, p280-285
- [10] 藤井聡, 2003, 社会的ジレンマの処方箋 都市・交通・環境問題のための心理学, ナカニシヤ出版
- [11] 南雲治嘉, 2006, 和風カラーチャート, 株式会社グラフィック社
- [12] ディックカラーアンドデザイン株式会社, 2007, 和の配色辞典, 技術評論社, 4版

70

ご清聴ありがとうございました



Public Psychology Lab., University of Tsukuba

71

71